



山野内真人佐伯市議 6月議会報告

(佐伯市議会一般質問・6月13日)

● 市職員に対するカスタハラ対策は、万全か

【質問】 佐伯市では、令和元年度から今年の2月までの約5年間に、76人の早期退職者がいる。そのうちの55人が40代、50代で、年配者が多い。また一方で、顧客等からの度を越した悪質なクレームであるカスタマーハラスメント問題となっている。特に年配者に対して、その影響が強いと聞く。市職員の早期退職に、カスタマーハラスメントは影響していないか。



【答弁】 指摘の期間内に、カスタマーハラスメントを主たる原因として退職した事例はない。ただし、日常的にカスタマーハラスメントに該当する事例はあると思われる。

【質問】 カスタマーハラスメントは、職員が精神的・身体的に危険にさらされるとともに、公務の適正な執行も害される。行政として、どのような対策を考えているか。

【答弁】 対応マニュアルの提示、警察との連携などを考えている。職員の名札を、ひらがなの苗字だけにしたのもその一環である。

【質問】 条例の制定は、考えていないか。

【答弁】 今後の全国的な取り組みの動向を注視し、研究したい。いずれにしても、組織で職員を守るという方向で考えていきたい。

● 本庄地域の活性化について

● 直川地域の活性化について

● 宇目地域の活性化について

● 振興局の取組に対する本庁の支援等について

以上の質問をしました

春野慶司豊後大野市議 6月議会報告

(豊後大野市議会一般質問・6月27日)



● 火葬場の残骨灰の売渡しにかかる一般競争入札の導入について

【質問】 この質問を初めてした時から大分市ではすでに2回実施した。令和5年6月と6年5月である。この間に豊後大野市が2回実施していれば得られたであろう逸失利益は軽く1千万円は下らないと考える。大分市が3回目を実施(令和7年5月頃)するまでには豊後大野市も実施できるのか。入札といっても年に1回実施するだけで、一般競争入札を実施したからといって業者の仕事

内容が変わるわけでもない。なぜ実施までにこんなに時間がかかるのか理解できない。いたずらに引き伸ばしていること。逸失利益の計算が大分市の例などから容易に算定できることから住民監査されてもおかしくない案件と考える。住民監査請求をされる前にどうか実施してほしい。

【環境衛生課長答弁】 本市では昨年度「残骨灰」の取扱いに関するアンケート調査を行った。それによると「売却は好ましくない」という回答は9.6%であった。現在、野津町区域を対象にアンケート調査中であるので、その結果を待って臼杵市との協議を行い最善な選択をする。

● 企業版ふるさと納税について

● 高齢者の健康対策としての運動機会の増大について

● 認知症基本法(共生社会の実現を推進するための認知症基本法)について

● 人口減少を見据えた旧町村の施設の老朽化に伴う建物の取扱いについて

以上の質問をしました